

# 福島県の気候

渡 辺 明

福島県は Köppen (1918) の気候区分によれば、温帯多雨気候区 (Cfa) に位置する。しかし、気象要素は年によっても、あるいは、局地的な地形 (標高など) によっても異なり、一部山岳地帯は、亜寒帯多雨気候区 (Dfa) や、温帯夏雨気候区 (Cwa) に位置する。

こうした気候環境の基本は、太陽からの短波放射量によって決定される。太陽からの短波放射量はその入射角、すなわち、太陽高度によって決まる。太陽高度の高い所、高い時期には、単位面積当りに入射する短波放射量が多く、気温が高くなる。また、太陽高度が低い所、低い時期には、単位面積当りに入射する短波放射量が少なく、気温が高くない。従って、気温分布は、局所的な影響がなければ、一般に緯度に依存し、帯状分化する。

また、気温の高低は、その大気中に含み得る水蒸気量 (飽和水蒸気量) を一意的に決定するため、水蒸気の補給が困難な地域を除けば、気温と同様帯状分化する。従って、大気中の水蒸気量に大きく依存する降水量も、時間的に長いスケールで平均化すれば、ほぼ大気中の水蒸気量分布と同様な分布をする。しかし、局地的にみれば、降水量は水蒸気存在量だけではなく、降水現象が発生しやすい地域か、しにくい地域かによっても大きな差が生じるし、地形的に水蒸気量が移流しやすい地域か、しにくい地域かによっても差が生じる。このことは、その地域の卓越風向や海岸からの距離などにも依存する。

このように、一つ一つの気象要素は、その地域の位置や地形によって大きく変化するため、気候環境を詳細に理解するためには、数多くの観測地点による永年にわたる観測値が必要になる。ここでは 1978 年から県内 29 ケ所に設置された気象庁地域気象観測システム (AMeDAS: Automated Meteorological Data Acquisition System) の毎時間の 1978 年から 1982 年までの 5 年間の資料を使用し、ほぼ数十 km スケールでの福島県内の気候環境の概要を述べる。

## 1. 気温と温量指数の分布

第 1 図に福島県内の平均気温分布を示す。太平洋岸、福島、郡山盆地、および、会津盆地で相対的に高温を示し、他の相対的に標高の高い地域で低温となっている。これを福島気象台 (1974) の 1941 年から 1970 年までの年平均気温の平年値の分布と比較すると、分布形態はほぼ同様であ